

都市再生整備計画 事後評価シート
柳河・城内地区

令和1年6月

福岡県 柳川市

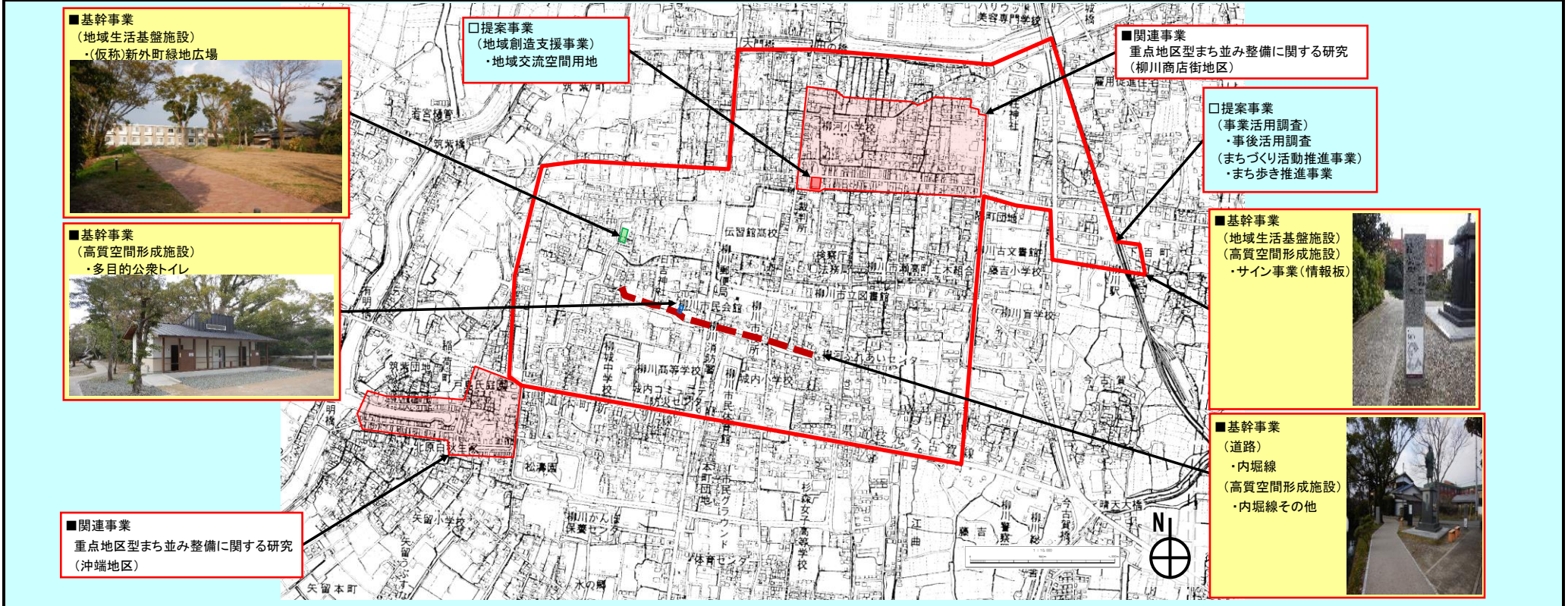
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	柳川市		地区名	柳河・城内地区			面積	197ha		
交付期間	平成25年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	370万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(サイン事業、高質空間形成施設(内堀線その他、サイン事業))									
			提案事業	地域創造支援事業(地域交流空間用地費)、まちづくり活動推進事業(まち歩き推進事業)、事業活用調査(事後活用調査)									
			事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業	基幹事業	街なみ環境整備事業	本計画では柳河地区、沖端地区、2地区の整備方針策定を予定したが、柳河地区は平成26年度から沖端地区は平成28年度から「地域の活性化に資する重点地区型まち並み整備に関する研究」として九州大学との受託研究を実施したため。				なし					
		提案事業	景観デザイン検討業務	内堀線の整備について、景観デザインの検討を計画していたが、実施設計に伴い「柳川市景観アドバイザー」の活用を行い、当初の目的は達成しているため。				なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(基幹事業/仮称)新外町緑地広場)	緑地広場の整備により、まち歩きの推進と遊歩道の回遊性向上のための機能充実を図る。				遊覧船船着き場を有する外堀線に隣接する本広場を整備することで、景観や回遊性が向上した。					
			高質空間形成施設(基幹事業/多目的公衆トイレ)	多目的公衆トイレの整備により、まち歩きの推進と遊歩道の回遊性向上のための機能充実を図る。				遊覧船船着き場を有する内堀線に隣接する位置に多目的トイレを設置したことにより、観光客の利便性が向上した。					
		提案事業	なし	なし				なし					
	交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし						
		変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	観光入込客数	人/年	1,174,000	H24	1,200,000	H29	モニタリング	1,418,000	○	あり なし		
	指標2	商店街の歩行者通行量	人/日	1,074	H21	1,200	H29	評価値	1,024	×	あり なし	提案事業で取得した『地域交流空間用地』の具体的な活用が地元商店組合で計画されており、それらに合わせて周辺の空き家活用の機運も高まっているため。	平成31年10月
	指標3	身近な景観の改善度	%	38	H22	42	H29	評価値	62	○	あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	なし		なし				なし					
4)定性的な効果発現状況	なし												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	サイン設計合わせてまち歩き社会実験を実施し、参加者に意見を募った			都市再生整備計画に記載し、実施できた				○				
		サイン設計合わせて、住民参加のまち歩き社会実験を実施した			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				○				
		サイン設計合わせて、住民参加のまち歩き社会実験を実施した			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
持続的なまちづくり体制の構築	対象地区を柳川商店街及び沖端としたまちなみワークショップを開催し、これからのまちなみづくりの方針や取り組みを、市民・行政・大学が連携し議論してきた。			都市再生整備計画に記載し、実施できた				○					
	対象地区を柳川商店街及び沖端としたまちなみワークショップを開催し、これからのまちなみづくりの方針や取り組みを、市民・行政・大学が連携し議論してきた。			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
	対象地区を柳川商店街及び沖端としたまちなみワークショップを開催し、これからのまちなみづくりの方針や取り組みを、市民・行政・大学が連携し議論してきた。			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

柳河城内地区(福岡県柳川市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
市街地のまち歩き観光の振興と賑わいの創出を図る ①観光拠点と拠点間の整備及びスムーズな案内誘導により回遊性を高め、交流人口の増加を目指す。 ②魅力あるまち並みと賑わいの場の創出により、住民や観光客の滞留性を高め、中心市街地の活性化を目指す。 ③市街地の良好なまち並みの形成と賑わいにより、定住環境の向上を目指す。	観光入込客数	単位:人/年	1,174,000 H24	1,200,000 H29	1,418,000 H29
	商店街の歩行者通行量	単位:人/日	1,074	1,200 H29	1,024 H30
	身近な景観の改善度	単位:%	38	42 H29	62 H30



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・サイン事業により、情報板を設置したことで、史跡、文化財や観光資源等の位置は明確になった。 ・点在于る情報板の活用策が必要。 ・地域交流空間用地を確保したことで、商店街の活動が活発になっているものの、現状は空き店舗が目立ち、商店街全体としての賑わいはない。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩き観光の推進を図るための情報板の活用策として、観光客向けの散策ルートの設定等の誘導施策が求められる。 ・自家用車を利用した来訪者向けに、散策時の拠点となる駐車場の案内も必要となる。 ・商店街の活性化策として、空き店舗対策は急務である。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	内堀線	110	歩道整備 L=700m、W=3.0m	73	歩道整備 L=700m、W=3.0m	事業費 減 ・設計業務による事業費精査の結果	まち歩きルートの一部である内堀線の老朽化した遊歩道を、バリアフリー化を含めた再整備を行ったことで、身近な景観が改善された。	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	情報板(サイン事業)	30	歩行者系 50基	30	歩行者系 50基	変更なし	情報板整備により、円滑なまち歩きの誘導を図った。	●	
	(仮称)新外町緑地広場	58	面積 A=1,400㎡	58	面積 A=1,400㎡	第一回(H26)に追加 追加理由 ・回遊性の機能向上のため	まち歩きの推進と遊歩道の回遊性向上のための機能充実が図られた。	●	
高質空間形成施設	内堀線	60	たたき舗装(土系) A= 1,960㎡ 植栽・緑化施設 A= 530㎡ 照明施設 一式	125	たたき舗装(土系) A= 1,960㎡ 植栽・緑化施設 A= 530㎡ 照明施設 一式	事業費 増 ・設計業務による事業費精査の結果	掘割周辺との景観の調和に配慮した改修工事を実施したことで、機能の充実と合わせて、まち歩きの魅力向上を図った。	●	
	サイン事業	5	カラー舗装 450㎡	5	カラー舗装 450㎡	変更なし	情報板だけではわかりにくい箇所へカラー舗装を行うことにより、円滑なまち歩きの案内誘導を行い回遊性を高め、交流人口の増加を図る。		×
	多目的公衆トイレ	22	建築床面積21㎡程度 多目的トイレ 1室 男子トイレ 1室 女子トイレ 1室	22	建築床面積21㎡程度 多目的トイレ 1室 男子トイレ 1室 女子トイレ 1室	第一回(H26)に追加 追加理由 ・拠点間の遊歩道機能充実のため	まち歩きの推進と回遊性の機能向上に向け、内堀線整備と合わせ、既存トイレをバリアフリー対応の公衆トイレに改修を行い、高齢者や障害者を含め、多くの住民や観光客が利用できる遊歩道としての機能の充実を図った。	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業	柳河地区、沖端地区	5	良好なまち並みの形成と定住環境の向上を目的とした整備方針策定	0	削除	まち並み整備に関する研究と題して九州大学との受託研究を関連事業として実施	特になし(関連事業として実施)		
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	観光入込客数	人/年	市観光課による観光動態調査結果の引用	-		1,174,000	H24	1,200,000	H29	モニタリング	1,418,000	H29	モニタリング		-	-
										事後評価	確定見込み ● (118%)	事後評価	○			
指標2	商店街の歩行者通行量	人/日	各年11月前後に商店街内の定点でカウント調査	-		1,074	H21	1,200	H29	モニタリング	1,024	H30	モニタリング		●	-
										事後評価	確定見込み ● (85%)	事後評価	×			
指標3	身近な景観の改善度	%	市が市民を対象にアンケート調査	-		38	H22	42	H29	モニタリング	62	H30	モニタリング		-	-
										事後評価	確定見込み ● (148%)	事後評価	○			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	外国人観光客の増加、個人による小グループ観光客の増加が要因といえる。	-
指標2	・高齢化や大規模集客施設の進出等による、商店街の衰退並びに中心市街地のにぎわい低下によるもの。 ・対象指標値に自転車台数が含まれており、通学者数の変化による影響も考えられる。	・地域創造支援事業で取得した用地において、商店街の拠点施設(よかもん館)が建設されたことから、それに波及した歩行通行量の増加が見込める。 ・より現状を把握するために買い物行動の増加する時間帯(例:10時~16時)での調査を検討。
指標3	本事業以外にも駅舎の改築や、区画整理事業、沿岸道路建設等のインフラ整備の完了が、日常生活における身近な景観の改善要素となっている。	-

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	事後評価		
その他の 数値指標1	該当なし						モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(特になし)

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
商店街歩行者通行量カウント調査	予定どおり実施した	● 【実施頻度】:H30年度に1回 【実施時期】:10月18日 8:00~20:00 【実施結果】:1,024人(自転車を含む)	次年度以降も継続してカウント調査を実施する。実施にあたって、調査箇所、手法の見直しについても検討を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちなみワークショップ 京町一・京町二・旭町南および恵美須町 恵美須町 恵美須町・曙町・旭町北を対 象地区として、これからのまちなみづくり方 針や取り組みを、市民・行政大学がともに 考える場。	予定どおり実施した	● 【実施頻度】:5回 【実施時期】:H26.10~H27.3 【実施内容】:課題の抽出、基本方針の策定、重要取り組みテーマの決定	より一層の効果を求め、継続していく方針。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
まちなみワークショップ 沖端地区を対象地区として、これからのま ちなみづくり方針や取り組みを、市民・行政 大学がともに考える場。さげもん祭り期間 中の開催支援。	予定どおり実施した	● 【実施頻度】:H28年度:5回、H29年度:6回、H30年度:4回 【実施時期】:H28.10~H30.12 【実施内容】:課題の抽出、社会実験開催支援	より一層の効果を求め、継続していく方針。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
中心市街地の今後のあり方(維持管理方針・整備方針等)に関する庁内勉強会 (組織名:名称無し)	建設課・下水道課・水路課・観光課・商工ブランド振興課・生涯学習課・柳川みやま土木組合・都市計画課	平成30年12月20日 平成31年 2月 5日 平成31年 4月15日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3							
指標名		観光入込客数		身近な景観の改善度							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	内堀線	○	外国人観光客の増加が指標達成に大きく影響している。歩行者道の整備、情報板の設置等により、受け入れ体制は整っているものの、まち歩き散策は沖端地区に集中しているのが現状である。	○	老朽化した施設の改修、街並みに符合した情報板の設置をしたことで、身近な景観が改善された。						
	サイン整備	○		◎							
	(仮称)新外町緑地広場	○		◎							
	内堀線その他	○		◎							
	多目的公衆トイレ	○		○							
提案事業	街なみ環境整備事業	△				△					
	地域交流空間用地費	-				-					
	景観デザイン検討業務	△				△					
	まち歩き推進事業	○				○					
関連事業	事後活用調査	-				-					
	重点地区型まち並み整備に関する研究										

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	観光客への周知の徹底や、散策ルート策定等の追加施策が必要である。	更なる景観向上のために、設置した市施設等の維持管理に努める必要がある。		
-------	----------------------------------	-------------------------------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標2											
指標名		商店街の歩行者通行量											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	内堀線	—	用地取得の当初目的は、商店街におけるイベント広場的な位置付けであったため、イベント時の通行量は増加したものの日常的通行量の増加には繋がらなかった。										
	サイン整備	△											
	(仮称)新外町緑地広場	—											
	内堀線その他	—											
	多目的公衆トイレ	—											
提案事業	街なみ環境整備事業	—											
	地域交流空間用地費	△											
	景観デザイン検討業務	—											
	まち歩き推進事業	△											
関連事業	事後活用調査	—											
	重点地区型まち並み整備に関する研究												

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>商店街振興組合が、賑わい創出のために取得した用地に、拠点施設を建設している。この施設を活用し、地域内外からの利用者の増加を図る。</p>
--------------------------	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
中心市街地の今後のあり方(維持管理方針・整備方針等)に関する庁内勉強会 (組織名:名称無し)	建設課・下水道課・水路課・観光課・商工プラント・振興課・生涯学習課・柳川みやま土木組合・都市計画課	平成30年12月20日 平成31年2月5日 平成31年4月15日	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
人口が減少している中まちの活力維持のためには、市内に点在する観光資源を活かしたまち歩き観光の推進を図る必要がある。	まち歩きルート想定した案内サインの改修及び新設を行ったことで、これまでよりスムーズな誘導ができるようになった。	まち歩き推進のため、紙ベースのマップの整理(既存マップの集約などの検討を含む)や、インターネット等を使った情報発信などが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きルートの設定とその情報発信並びに、誘導施設の整理 ・様々な交通体系(公共交通、自家用車、シェアサイクルなど)に対応したまち歩きの拠点となる施設の設定及び整備並びに、連携の強化。 ・中心市街地の空洞化を防ぐためには、商店街の活性化が不可欠であるが、住宅併用の店舗が含まれる商店街では、閉店している店舗でも居住されていることがあるため、新規参入時の課題となっている。
まち歩きを積極的に進めるため、日本人観光客だけでなく海外からの観光客も視野に入れた拠点及び拠点間の整備・誘導の必要がある。	改修、新設された案内サインや誘導サインについては、英語表記を併せて行った。	既存サインの外国語表記の統一や、多言語の対応が課題となっている。	
まち歩きに利用されている水辺の散歩道は、老朽化が進むとともにバリアフリー化に対応できていないため、改修が必要な時期にきている。	バリアフリー非対応で老朽化していた木橋の改修や、歩道内の階段や歩車道境界部の段差を極力減らし、歩きやすい環境が整備できた。	—	
大規模集客施設の進出に伴う中心市街地の空洞化を防ぐため、賑わい創出の取組が必要となっている。	地域交流空間用地を確保したことで、新たな施設建設など商店街の活動が活発になっている。	空き店舗の活用に向け、既存の施設や各種イベントなどとの連携をまち全体で検討し、ソフト面での賑わいの創出の取組が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	まち歩き観光の推進	まち歩きルートに係る施設の維持及び必要に応じた改修工事の実施並びに、情報発信を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きマップ作成並びに情報発信用データシステムの構築業務 ・拠点施設整備

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	商店街の空き店舗の活用	空き店舗の実情を整理しつつ、空き店舗活用に向けた情報発信やフォローアップなどのルール作りを行い、商店街ないしは、まち全体の賑わい創出を図る。また、それらと連携した様々な観光形態の検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗実態調査業務 ・連携する拠点の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策 		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

【今後のまちづくり方策】

- ・柳川市の玄関口となっている西鉄柳川駅の西口周辺の改修を予定している。
- ・観光の要所となっている沖端地区の改修
- ・中心市街地の夜間ライトアップ(観光拠点間を結ぶ)

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	観光入込客数	人/年	1,174,000	H24	1,200,000	H29	確定	●	1,418,000	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標2	商店街の歩行者通行量	人/日	1,074	H21	1,200	H29	確定	●	1,024	×	あり	→	H31.10	【実施時期】:10月 8:00~20:00 【調査対象】:歩行者、自転車	調査内容の見直しについて検討を行う
							見込み				なし				
指標3	身近な景観の改善度	%	38	H22	42	H29	確定	●	62	○	あり	→			
							見込み				なし				
その他の数値指標1				H	/		確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の数値指標2				H	/		確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の数値指標3				H	/		確定				あり	→			
							見込み				なし				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	景観アドバイザー制度を活用した整備を行ったことで、景観の向上に関する意見を地元から多くいただけた。	賑わい創出のため、ソフト面の支援を長期的な視点で検討する。
	うまくいかなかった点	商店街の活性化のために地域交流空間用地を取得したが、ソフト面の支援が不足していたため、継続的な賑わい創出につながらなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		事業の実施を考慮した指標の算出方法を検討する。
	うまくいかなかった点	商店街の歩行者通行量の指標に関し、長い路線の中の一つの断面だけで判定していたので、直接結果に結びつかなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	関連事業として2地区のワークショップを実施したことで、行政だけでは解決できない課題の洗い出しができたことと、地域住民自身がまちづくりの担い手であることなどの意識変化が出てきた。	積極的に住民参加型のまちづくり事業を推進する。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		検討体制を整え、例えば年2回の定例会を開催するなど、PDCAサイクルの基本的な流れを事業計画段階で決定しておく。
	うまくいかなかった点	定期的な見直し体制が構築できていなかった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(仮称)拠点連携地区

※駅周辺～沖端地区間の拠点連携強化。駅：交通拠点、沖端：観光拠点、市民文化会館周辺：文化拠点それぞれの拠点としての機能強化やそれらを結ぶ交通機能の強化等を実施予定